

「(仮称)松田町住宅整備事業」に対する討論

反対討論

田代 実 議員

ただいま委員長から報告がありました議案第56号平成28年度松田町一般会計補正予算(第6号)第2表債務負担行為補正(仮称)松田町住宅整備事業に対し、平成59年度までの30年間、町が11億2,273万円もの債務保証をすることに反対の立場から討論を行います。

この事業は、町屋地区に子育て世帯向け住宅を、民間活力を導入し、PFI方式により整備をするものです。松田町初めてのPFI事業に対し、画期的なもので夢のあるものです。しかしながら、疑問点もあります。もう少し幅の広い議論をするべきです。一方、籠場地区には高齢者や障害者向けの福祉住宅で、既存の古い町営住宅に住む方の住みかえを第一に考え、整備

するものです。まさに、社会的弱者のためのものです。

しかし、今回の計画は町単独事業で国の補助金を活用しないで整備するものです。なぜ公営住宅法に基づく町営住宅の整備に取り組まなかったのでしょうか。財源の少ない当町にとっては、国庫補助金は重要な財源となります。地方公共団体である松田町は福祉施策の一環としての町営住宅を整備するべきです。単独住宅の整備であることに問題を感じます。また、30年間という長きにわたり、11億円余りの債務保証を町が行うのに本会議での審議時間、また特別委員会での審査時間は少ないように感じております。

私の反対討論は、以上のとおりです。

賛成討論

平野 由里子 議員

私は、平成28年度松田町一般会計補正予算(第6号)の(仮称)松田町住宅整備事業に関する債務負担行為補正について賛成いたします。その理由として、先日報道があったように、国も人口増加促進のために、人口増加をした自治体に対し交付税を上乗せをするということを発表しており、人口増加策は喫緊の課題です。周辺自治体との人口の奪い合いになることは目に見えております。ここはスピード感をもって定住策を打ち出す必要があります。このPFI方式は町にとって初めてのことで、また、11億2千万円程を30年間にわたるといふ債務負担行為もかつてない大きな規模のものです。委員長報告のとおり、特別委員会では大変多くの質疑がなされ、また、それに対し、担当課長及び町長みずからしっかりとした説明があり、一つ一つの心配を払拭していきました。

また、町の実質的な負担は維持管理に関する経費にほぼかかっていくと私は理解しました。厳しい財政の中で、また、人的資源も限られた小さな町の中で、町もさまざまな方法を模索、最も町のリスクが少ない、負担が少ないこの方法を選んだという説明がありました。そしてまた、長期的な町全体の公債費の推移を考えても、このPFIの分、それから、これから考えられる木づくりの学校建てかえの分などを考えても、起債制限等、超えない範囲におさまることが予測できました。そして、子育て世代に向けた洗練されたデザインの新築の住宅というのは、非常に希望があるものと判断いたしました。

また、籠場のほうで公営住宅法から外れた方法を選

択したということ、社会的弱者のためだけではない住宅をあえてつくるという選択をしたということ、これに関しても、より多様な世帯の入居を将来にわたって可能にするということで私は納得いたしました。この社会的弱者のための公営住宅に関しましては、国全体も今、やや不足ぎみであるというような問題も聞いてはありますが、町全体の経営の長期的なスパンを考えたときに、あえてこの公営住宅法の縛りを外すという選択をしたことも私は納得いたしました。また、社会的弱者のためには20年間、家賃の軽減措置が図られること、そしてまた、もっと厚い、例えば生活保護等のセーフティーネットもあるので、町のきめ細やかな福祉政策で個々のケースで対応できればカバーできるのではないかと思います。

ハード整備だけで、もちろん安心してはいられないとは思いますが、先ほど言った人口増加策は、本当に奪い合いになることは目に見えているので、教育・文化・健康・福祉政策などあらゆる面で知恵を絞っていただき、また、産業や観光政策にも力を入れていただいて、来てよし・住んでよしのまちづくりを推進していただきたいと思っております。バイタリティーあふれる若い人たちを呼び込む。恐らく、ここに住みたいという世帯は共働きの人も少なくはないと予想されます。子育てしながらでも自己実現、社会貢献の意欲が高いバイタリティーあふれる若い人たちを呼び込もうというこの政策は、未来につなぐための大きな事業と考えて、私は賛成いたします。